

令和7年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校国語

○正答率の状況

	R 7	R 6
廿日市市	7 1	7 0
広島県	6 9	6 9
全国（公立）	6 6. 8	6 7. 7

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する。
＜設問2－2＞ 86%
- 【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する。
＜設問3－1＞ 84. 8%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する。
＜設問 3－3（1）＞ 44. 8%
- 【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。
＜設問3－2（2）＞ 51. 1%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。
＜設問2－1＞ 2. 6ポイント（廿日市市64. 6%、広島県67. 2%）
- 【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する。
＜設問3－2（2）＞ 1. 5ポイント（廿日市市51. 1%、広島県52. 6%）

正答率の状況から見取った課題

【読むこと】

- ①目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。
→必要な情報を見付けるためには、文章の要旨を捉えた上で、資料と文章のどの部分と結び付くのかを明らかにしながら、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりするように考えながら読むことができるように指導する。 ＜設問2－1＞
- ②事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。
→理由や事例を書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめることができるようにする。 ＜設問3－2（2）＞

令和7年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校算数

○正答率の状況

	R 7	R 6
廿日市市	5 9	6 3
広島県	5 9	6 4
全国（公立）	5 8	6 3. 4

正答率 60%以上の設問（上位 2 問）

- $1 \div 2 + 1 \div 3$ を計算する。
＜設問 3（4）＞ 8 4. 5 %
- 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ。
＜設問 4（1）＞ 8 2. 7 %

正答率 60%未満の設問（下位 2 問）

- $3 \div 4 + 2 \div 3$ について、共通する単位分数と、 $3 \div 4$ と $2 \div 3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。
＜設問 3（2）＞ 2 2. 3 %
- 数直線上に示された数を分数で書く。
＜設問 3（3）＞ 2 8. 2 %

広島県との差が大きかった設問（下位 3 問）

- 数直線上に示された数を分数で書く。
＜設問 3（3）＞ - 7. 9 ポイント （廿日市市 2 8. 2 %、広島県 3 6. 1 %）
- 角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ。
＜設問 2（3）＞ - 3. 5 ポイント （廿日市市 7 7. 4 %、広島県 8 0. 9 %）
- 1 0 % 増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ。
＜設問 4（4）＞ - 2. 6 ポイント （廿日市市 3 7. 1 %、広島県 3 9. 7 %）

正答率の状況から見取った課題

- ① 全体的な傾向として、【評価の観点】思考・判断・表現に課題がある。
- ② 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察することに課題がある。
＜設問 3（2）＞＜設問 3（3）＞
→ 数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法に帰着できるように指導する。
- ③ 日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量を見だし、それらの関係について考察することに課題がある。
→ 基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるように指導する。
＜設問 4（4）＞

令和7年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

小学校理科

○正答率の状況

	R 7	R 6
廿日市市	6 0	
広島県	5 9	
全国（公立）	5 7. 1	

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ。
- ＜設問1（3）＞ 83.2%
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く。
- ＜設問1（1）＞ 82.8%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。
- ＜設問2（1）＞ 9.3%
- レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く。
- ＜設問3（4）＞ 32.1%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く。
- ＜設問3（4）＞ -4.8ポイント（廿日市市32.1%、広島県36.9%）
- アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ。
- ＜設問2（1）＞ -0.9ポイント（廿日市市9.3%、広島県10.2%）
- ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く。
- ＜設問2（3）＞ -0.9ポイント（廿日市市76.8%、広島県77.7%）

正答率の状況から見取った課題

- ①レタスの種子の発芽の条件について、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することに課題がある。
- 事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにする必要がある。＜設問3（4）＞
- ②電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題がある。
- 学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関係付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深める必要がある。＜設問2（1）＞

令和7年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校国語

○正答率の状況

	R 7	R 6
廿日市市	5 6	6 0
広島県	5 5	5 8
全国（公立）	5 4. 3	5 8. 1

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く。
 <設問 3二> 93. 9 %
- ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する。
 <設問 1二> 87. 3 %

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く。
 <設問 3四> 19. 7 %
- 発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く。
 <設問 2四> 27. 0 %

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- 変換した漢字として適切なものを選択する。（かいしん）
 <設問 1一> - 5. 2ポイント （廿日市市 28. 7%、広島県 33. 9%）
- 手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く。
 <設問 4二> - 3. 0ポイント （廿日市市 30. 9%、広島県 27. 9%）
- 物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する。
 <設問 3一> - 0. 8ポイント （廿日市市 79. 8%、広島県 79. 0%）

正答率の状況から見取った課題

- ①文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
 →音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いを確認し、必要に応じて辞書を引くよう指導する。
- ②読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題がある。
 →具体的な相手を想定して読み返し、伝えようとするものが伝わるかどうかを確かめる学習活動を取り入れる。
- ③表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。
 →特徴的な表現や気になった表現をグループで出し合い、気になった理由を話し合う学習活動を取り入れる。

令和7年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校数学

○正答率の状況

	R 7	R 6
廿日市市	4 6	5 3
広島県	4 7	5 2
全国（公立）	4 8. 3	5 2. 5

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く。
 <設問 7（1）> 7 8. 0 %
- A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ。
 <設問 8（1）> 7 1. 7 %

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する。
 <設問 6（2）> 2 1. 0 %
- 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ。
 <設問 1> 2 9. 0 %

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。
 <設問 5> - 7. 7ポイント（廿日市市 3 3. 1 %、広島県 4 0. 8 %）
- 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ。
 <設問 1> - 4. 7ポイント（廿日市市 2 9. 0 %、広島県 3 3. 7 %）
- $\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める。
 <設問 3> - 4. 1ポイント（廿日市市 5 1. 2 %、広島県 5 5. 3 %）

正答率の状況から見取った課題

- ①素数、外角、増加量、相対度数などの用語の意味の理解に課題があるため、授業の中で用語を活用して表現する機会を充実させることが必要である。<設問 1、3、4、5>
- ②事柄・事実、方法・手順や理由を説明することに課題があるため、自分の考えを記述する機会を充実させるとともに、正誤に終始することなく、生徒の記述を評価することが必要である。
 <設問 6（2）（3）、7（2）、8（2）、9（3）>

令和7年度全国学力・学習状況調査 教科における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

中学校理科

○IRTスコアの状況

※IRT（項目反応理論）

	R 7	R 6
廿日市市	5 0 9	
広島県	4 9 5	
全国（公立）	5 0 3	

正答率 60%以上の設問（上位2問）

- 加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する。
＜設問5（1）＞ 93.9%
- 「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する。
＜設問4（2）＞ 88.4%

正答率 60%未満の設問（下位2問）

- 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。
＜設問2（1）＞ 12.5%
- Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す。
＜設問8（2）＞ 21.4%

広島県との差が大きかった設問（下位3問）

- クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する。
＜設問9（2）＞ -7.9ポイント（廿日市市45.5%、広島県53.4%）
- 電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する。
＜設問1（1）＞ -4.9ポイント（廿日市市43.7%、広島県48.6%）
- プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる。
＜設問4（1）＞ -3.3ポイント（廿日市市44.9%、広島県48.2%）

正答率の状況から見取った課題

- ①知識が断片的で、概念的な理解の形成に課題がある。
→観察実験を想起したり、既習知識を活用したりして、身近な事象とを関連付けて概念的な理解を深める学習場面を設定する必要がある。＜設問1（1）、9（2）＞
- ②予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。
→すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定する必要がある。＜設問2（1）＞

令和7年度全国学力・学習状況調査 質問紙における児童の学習状況の概要

小学校児童質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

設問	R 7	県平均	R 6比増減
自分には、よいところがあると思いますか	89.5	88.1	+1.8
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	96.0	93.0	+3.1
将来の夢や目標を持っていますか	83.4	83.9	+0.6
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	77.1	74.1	+5.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.4	96.9	+1.8
人が困っているときは、進んで助けていますか	94.0	94.7	+3.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.7	97.9	+0.4
友達関係に満足していますか	94.5	92.8	+1.9
学校に行くのは楽しいと思いますか	89.2	86.6	+2.8
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	84.9	82.1	-0.8

回答の状況から見える成果と課題

成果

- ① 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目について、昨年度との比較において5.4ポイント増加しており、校内の相談体制がより整備されていることが考えられる。
- ② 先生方は児童のよいところを積極的に認めており、児童もそのことを肯定的に受け止めている傾向が継続しており、そのことが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。
- ③ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目が昨年度との比較において2.8ポイント増加している。

課題

- ① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目が県との比較において0.2ポイントの差がある。また、否定的に回答している児童が2.3ポイントいる。
- ② 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目が昨年度の比較において、0.8ポイント減少している。

課題解決に向けて

○ 認め合える集団づくりの推進

本市で取り組んでいる「つながり支援プロジェクト」を通して、今後も子ども同士のかかわりを意図的に設定し、認め合える集団づくりを通して、子どもの自己有用感を高めることによっていじめ等の問題行動の未然防止を図り、学ぶ意欲を高めていく。

授業においても、児童の個別最適な学びや子ども同士の協働的な学びを一体的に進めていくことを通して、認め合える集団づくりを推進していく。

また、地域と連携した取組により、活動を認めてもらい、「役に立った」という実感を持たせる機会の確保に取り組む必要がある。

令和7年度全国学力・学習状況調査 質問紙における生徒の学習状況の概要

中学校生徒質問紙

○ 肯定的回答（1当てはまる、2どちらかといえば、当てはまる）の割合（％）

設問	R 7	県平均	R 6比増減
自分には、よいところがあると思いますか	87.5	87.0	+1.8
先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.8	90.2	+0.3
将来の夢や目標を持っていますか	67.7	68.7	+2.2
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	73.0	77.2	+2.7
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.2	97.0	+1.2
人が困っているときは、進んで助けていますか	88.8	90.7	+1.3
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.2	96.5	+0.1
友達関係に満足していますか	91.1	91.8	-1.1
学校に行くのは楽しいと思いますか	83.7	85.3	-0.3
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	77.7	75.3	-2.4

回答の状況から見える成果と課題

成果

- ① 自己肯定感や有用感に関わる項目の肯定的回答の割合が昨年度よりも増加している。
- ② 先生方は生徒のよいところを積極的に認めており、生徒もそのことを肯定的に受け止めている傾向が継続しており、そのことが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。

課題

- ① 「友達関係に満足していますか」の項目が昨年度との比較において1.1ポイント減少している。
- ② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目が昨年度との比較において0.1ポイント増加しているが、県平均と比較すると、0.3ポイント低い。
- ③ 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の項目は昨年度との比較において2.7ポイント増加しているが県との比較において4.2ポイントの差がある。

課題解決に向けて

○ 多面的、多角的なアセスメントによる教育相談体制の充実

生徒指導提要には教育相談において教職員に求められる姿勢として次の3点を挙げている。

- ① 指導や援助の在り方を教職員の価値観や信念から考えるのではなく、生徒理解（アセスメント）に基づいて考えること。
- ② 生徒の状態が変われば指導・援助方法も変わることから、あらゆる場面に通用する指導や援助の方法は存在しないことを理解し、柔軟な働きかけを目指すこと。
- ③ どの段階でどのような指導・援助が必要かという時間的視点をもつこと。
日常の生徒観察に加え、心の健康観察等のツールを用いることで生徒の状態を多面的、多角的に捉え、生徒理解を進めつつ、専門家を活用するなど教育相談体制の充実を図る必要がある。

令和7年度全国学力・学習状況調査 における学習内容の定着状況の概要（廿日市市版）

ウェルビーイング

＜クロス集計＞〔普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますかー友達関係に満足しています〕

小学校		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（人）				
		よくある	ときどきある	あまりない	全くない	総計
友達関係に満足しています（人）	当てはまる	4 4 9	2 2 7	1 6	3	6 9 5
	どちらかといえば、当てはまる	1 0 2	1 3 6	2 2	2	2 6 2
	どちらかといえば、当てはまらない	7	3 2	5	1	4 5
	当てはまらない	3	6	1	1	1 1
	総計	5 6 1	4 0 1	4 4	7	1, 0 1 3

中学校		普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（人）				
		よくある	ときどきある	あまりない	全くない	総計
友達関係に満足しています（人）	当てはまる	2 6 4	1 8 9	2 2	3	4 7 8
	どちらかといえば、当てはまる	8 6	2 0 7	3 9	2	3 3 4
	どちらかといえば、当てはまらない	4	3 6	2 4	0	6 4
	当てはまらない	0	5	7	2	1 4
	総計	3 5 4	4 3 7	9 2	7	8 9 0

児童生徒の回答状況から見取った成果と課題

- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」、「友達関係に満足しています」の質問に対して、どちらも肯定的に回答した児童は、90%、生徒は、83%であった。87%以上の児童生徒が心理的安全性が高い環境と人間関係の中で生活を送ることができており、これまでの各学校、各学年・各学級でのウェルビーイングを築く取組の成果が出ているのではないかと考えられる。
- 一方、両方の質問に否定的に回答している児童生徒は、2～3%であった。ウェルビーイングに関わる質問と各教科の平均正答率に相関関係は見られないからこそ、引き続き、児童生徒の様子等に注視し、個別の状況を把握していくことで早期対応を行い、いじめや不登校の未然防止に資する必要がある。